

## オーストラリア金融政策（2026年2月）

利上げ転換、政策金利は主要先進国で最高に

2026年2月3日

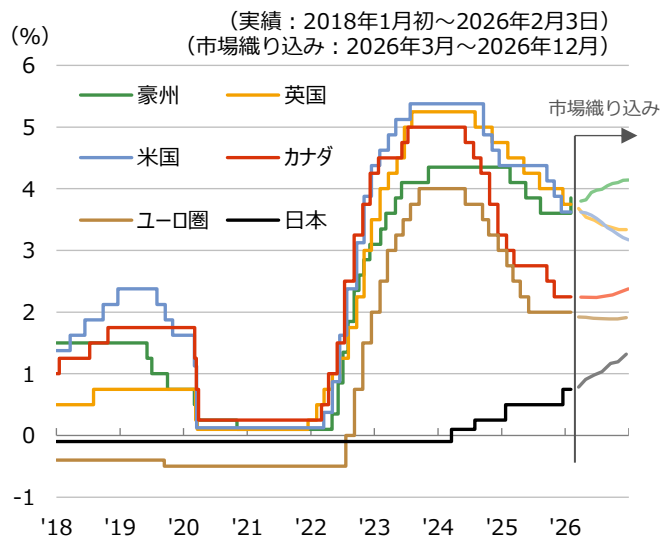
## 米国との政策金利差拡大が更なる豪ドル高につながる見込み

RBA（豪州準備銀行）は2月2日（現地、以下同様）から3日に開催した理事会で、政策金利を3.60%から3.85%に引き上げることを全会一致で決定しました。同行は昨年2月から8月にかけて3回（計0.75%pt）の利下げを実施しましたが、早くも利上げに転じることになりました。利上げ決定はおおむね市場予想通りではあるものの、一部で政策金利の据え置きが予想されていたほか、声明文などの内容に鑑みれば追加利上げの可能性が高いとの見方などから、市場は金利上昇と通貨高で反応しました。

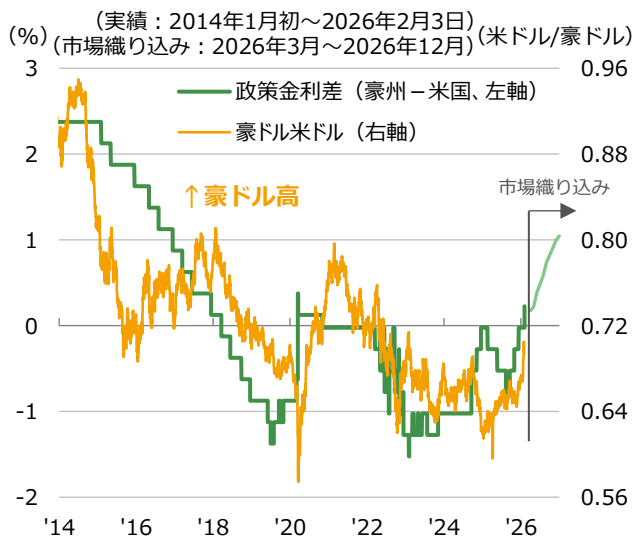
声明文や金融政策報告書では、個人消費や設備投資を中心として内需が想定以上に力強く成長しており、一時的な要因だけでなく供給能力のひっ迫を反映してインフレ率が昨年後半に著しく高まったと記されました。その上で、足元の通貨高や年内あと1回の利上げなどを前提としても、インフレ率は今年を通して目標レンジ（2～3%）を上回り続けるほか、見通し期間の最後である2028年4-6月期でも目標レンジの中心（2.5%）を上回るとの予測が示されています。ブロック総裁の会見によると次の利上げはデータ次第との姿勢ですが、上述のインフレ見通しに鑑みれば少なくともあと1回の利上げは想定すべきと考えます。

年初から強まっている米ドル離れの思惑の中、利上げ期待の高まった豪ドルは、米ドルだけでなく他の先進国通貨に対しても堅調に推移してきました。今回の利上げで豪州と米国の政策金利差は逆転し、今後はこの差が拡大することが見込まれ、豪ドル高の傾向が持続すると予想します。（執筆：調査部 岩手幸久）

## 各国・地域の政策金利



## 豪米政策金利差と豪ドル米ドル



## 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management